

いきいき・あんしん在宅療養サポート訪問看護人材育成事業 [令和5年度予算額: 25,920千円]

現状と課題

- 高齢化とともに医療的ケアが必要な要介護高齢者等が増加。令和7年度の訪問看護サービス量は元年度比で約1.4倍が見込まれる。
- 訪問看護師に求められる能力のひとつとして、フィジカルアセスメントが不可欠。在宅環境の中で得られる情報を収集・活用し、的確に判断する能力が大切
- しかし、OJTのみでは、現にサービスを利用している利用者の症例以外は学ぶ機会が少なく、対応困難例に対する技術の習得が難しい場合がある。
- フィジカルアセスメント習得にはシミュレーション教育が有効であるが、人体型シミュレータを個々の訪看ステーションで所有することは費用面等の課題から困難

事業内容

人体型シミュレータを活用したシミュレーション教育プログラムを策定して訪問看護師を対象に研修を実施、フィジカルアセスメントの向上を目指す。

1年目（R5）課題分析の調査・プログラム作成

- ・教育プログラム構築のために、都内訪問看護ステーション等に調査を実施
- ・東京都訪問看護教育ステーションにヒアリングを実施
- ・暫定版の「在宅療養のためのシミュレーション教育プログラム(仮)」を作成



2,3年目（R6,R7）教育プログラムの試行・効果検証

- ・東京都訪問看護教育ステーション等と連携し、近郊の公共施設等に人体型シミュレータを運搬して研修を実施。
- ・研修の前後にeラーニングを実施して在宅療養に関する基本的知識の整理を実施
- ・最終年度に事業全体を通しての効果検証を実施

継続的なeラーニング
知識の整理



人形型シミュレータで実践<技術>



現任訪問看護師の
一層のスキルアップを支援